

「天気」投稿および内容案内

「天気」では会員の多様な要望に応えるために、いろいろな欄を設けています。「天気」投稿および内容案内は、投稿者の便を図るために、「天気」2ページ目に毎号掲載している投稿規定を補足し、各欄の内容および執筆要領について詳細に説明するもので、毎年1回1月号に掲載しています。

「天気」編集委員会

1. 内容分類

- ① **論文**：原則として未発表の原著論文に限る。
- ② **短報**：速報性を要する研究成果の概要，小論文，論文に対するコメント及び回答を掲載する。
- ③ **解説**：気象学の最新の成果や関連する分野の興味深い話題を，わかりやすく説明する報文とする。原則として依頼によるが，会員からの投稿も歓迎する。
- ④ **シンポジウム**：国内・国外で開催されたシンポジウムについての，いろいろな角度（発表内容の詳細から参加体験記まで）からの報告記事とする。
- ⑤ **研究会報告**：各種研究連絡会や月例会など，学会主催の会議の報告を掲載する。
- ⑥ **最近の学術動向**：世界気象機関（WMO）・国際科学会議（ICSU）・国際連合教育科学文化機関（UNESCO）などの大気科学に関わる研究計画，並びに総合科学技術会議・日本学術会議の動向などの情報を掲載する。
- ⑦ **天気の教室**：天気予報・気象観測の現場や学校教育などに有用な気象学や気象技術の知識をわかり易く解説する。原則として依頼によるが，会員からの投稿も歓迎する。
- ⑧ **気象談話室**：気象に関連する様々なテーマについての示唆に富んだ話で，気楽に読める読物とする。一般の普及書や教科書では扱われない気象の見方・考え方，説明の難しい問題に対する従来とは見方を変えた答えや解説，そして小・中・高校生や研究を本務としない方々の調査・研究の紹介など。原則として「教育と普及委員会」からの依頼によるが，会員からの投稿も歓迎する。
- ⑨ **新用語解説**：気象関係の用語について，簡単な説明を掲載する。
- ⑩ **質疑応答**：読者からの気象に関連した質問に対し，編集委員会が会員に依頼して回答を掲載する。
- ⑪ **最近の研究から**：本学会以外の学術雑誌や学術会議に会員が発表した最新の研究成果や国内・国外の気象学に関する話題を簡単に紹介する。原則として会員からの投稿による。
- ⑫ **海外だより**：海外滞在，外国出張の際の印象や雑感

などについての比較的自由な形式での報告とする。原則として会員からの投稿による。

- ⑬ **素顔**：国内の学会では会えない外国の気象研究者の素顔を紹介する。
- ⑭ **気象業務の窓**：気象に関する新規業務及び業務の改善について広く会員に役立つ情報を掲載する。原則として依頼原稿による。
- ⑮ **学位論文紹介**：大気科学などに関する大学院修士論文，博士論文を会員からの投稿にもとづいて紹介する。詳細については3月号に掲載。
- ⑯ **本だな**：編集委員会宛に図書や寄贈と共に書評依頼のあったものについて，原稿を依頼して掲載する。会員からの投稿も歓迎するが，謝辞に名前がある方や，著書の編集委員など，著書に関係の深い方による投稿は，公平を期すため掲載しない。
- ⑰ **会員の広場**：学会の運営や学会誌に対する意見，あるいは会員相互の意見交換などを掲載する。会員からの投稿原稿をそのまま掲載することを原則とする。
- ⑱ **日々の天気図・今月のひまわり画像**
- ⑲ **気候情報**：「大気大循環と世界の天候」「日本の天候」を毎号掲載する。また，ENSOの現況やオゾン層の状況など，他の気候情報も随時掲載する。
- ⑳ **情報の広場**：会員から寄せられる，気象学の研究や調査などに有益な諸分野の情報や話題を掲載する。
- ㉑ **新刊図書案内**：刊行後1年以内で内容が気象に関連する和文の図書・CD-ROMの情報を掲載する。会員からの掲載依頼も受け付けている。
- ㉒ **学会だより**：気象学会の活動に関する情報を掲載する欄で，学会が主催・共催あるいは後援する会議についての案内も掲載する。
- ㉓ **支部だより**：各支部の活動状況，地区研究会や夏季大学の開催案内および開催報告などを掲載する。
- ㉔ **カラーページ**：珍しい現象や典型的な現象，情報処理技術の高度化に伴う現象の表示例，これまであまりなじみのない観測装置などを，カラー写真と1200字程度の簡単な説明文（図や表の併用も可）により紹介する。写真だけの提供も歓迎する。

㉕ **情報 File**：気象学会が共催・後援はしないが学会活動に関連が深い研究会の開催案内や開催報告あるいは人事募集などの簡単な情報を掲載する。

㉖ **その他**：以上の欄のいずれにもあてはまらない投稿は編集委員会において取り扱いを判断する。

2. 執筆要領

① 投稿原稿は手書きあるいはワープロいずれでもよい(ただし⑦に基づく英文についてはその項参照のこと)。手書きの場合には横書き原稿用紙(400字あるいは500字詰)を使用する。ワープロを使用する場合にはA4白紙(縦)に横書きで1ページに24字×44行で印刷すること(マージンは、左右は50 mm以上、上下は30 mm以上)。

② 長さの上限は7。原稿の長さを参照のこと。

③ 論文・短報・解説のはじめには和文の表題、著者名、所属機関名、末尾には英文の表題、著者名、所属機関名・住所を記載する。シンポジウム・気象談話室・情報の広場・海外だより・最近の研究から・天気教室のはじめには、和文の表題、著者名、所属機関名に加えて、英文の表題、著者名を記載する。

④ 電子メールアドレスの掲載を希望する場合は原稿のはじめに著者名と共に責任著者のものを記載する。

⑤ 論文には和文400字以内の要旨をつける。

⑥ 図は原則としてA4判用紙を使用し、そのまま版下となるように黒インクで明瞭に書き、図番号をつける。印刷される図の横幅は、2段組の片段の場合67 mm、1.5段の場合106 mm、2段にわたる場合は145 mmの3通りに限るので、図毎に必ず印刷時の縮小率を指定すること。線の太さ、文字の大きさは、印刷時に縮小されても見づらくないように十分注意すること。表にも番号と表題をつける。図表の番号は第1図、第2表などとする。1つの番号の図表に何種類もの図表が含まれている場合はa)、b)、・・・として区別する。このとき、本文中では「第1図aによると」のように引用する。引用する図表が出てくる本文の該当箇所の右横欄外に「第1図挿入」などと朱書する。図表の説明文はまとめて本文の末尾に付ける。

⑦ 論文・短報・解説では300語以内の英文要旨をつけ、図表の表題・説明文を英文とすることができる。この場合、図表の番号はFig. 1, Table 2などとするが、本文中での引用時には第1図、第2表などとし、図表の説明を本文中でも行って、本文を読むだけで意味が理解できるようにする。これらの英文はワープロで

A4白紙(縦)にタイプし、最終原稿は電子媒体で提出する。

⑧ 節の番号の付け方は、3., 3.1, 3.1.1とする。文中で箇条書きが必要な場合には、①②などとする。

⑨ 数式は上下に1行ずつあけて明瞭に書き、引用するときのために右端に(1), (39)などのように原稿全体にわたっての通し番号をつける。

⑩ 脚注はなるべく用いないこと。

⑪ 文献の引用は、次の例に示すようにする。

…解析の結果(松野, 1970; Klemp *et al.*, 1981; 二宮・秋山, 1991)は…。…は浅井ほか(1981)やKraus and Businger (1994)が調べている。

⑫ 参考文献は著者名のアルファベット順に並べ、本文の末尾につける。論文あるいは解説などは著者・年・題名・雑誌名・巻又は号番号・ページを、単行本は、著者・発行年・書名・出版社・引用ページ(あるいは総ページ)を記す。なお、雑誌の巻・号番号及びページについては、巻全体の通しページがある雑誌は、巻番号(ゴシック)と通しページを、巻全体の通しページがない雑誌は、5(12)のように巻番号(ゴシック)に続けて、号番号を括弧で示し、号毎のページを記す。また、号番号だけで巻番号のない雑誌は、括弧でくくった号番号とページを示す(以下の例参照)。

浅井富雄, 武田喬男, 木村龍治, 1981: 雲や降水を伴う大気, 大気科学講座2, 東京大学出版会, 249 pp.

Klemp, J. B., R. B. Wilhelmson and P. S. Ray, 1981: Observed and numerically simulated structure of a mature supercell thunderstorm, *J. Atmos. Sci.*, **38**, 1558-1580.

Kraus, E. B. and J. A. Businger, 1994: *Atmosphere-Ocean Interaction* (2nd ed.), Oxford Univ. Press, 362 pp.

松野太郎, 1970: 重力波と地衡風運動, *天気*, **17**, 349-352.

二宮洸三, 秋山孝子, 1991: 梅雨前線帯の cloud cluster, 第7章, *メソスケール気象*, 気象研究ノート, (172), 135-209.

3. 提出要領

論文は原稿および図表各4部(コピーも可、カラーの図はカラー4部)、短報・解説は各3部、その他の原稿は各2部を、本誌1月号および6月号にとじ込みの送り状に添えて、〒100-0004東京都千代田区大手町1-3-4, 気象庁内, 日本気象学会「天気」編集委員長新野 宏宛送付する。なお、投稿原稿は、原則として返却しないので、著者は控えを手元に置いておくこと。

また、印刷用図表は受理されるまで手元に置くこと。

なお、著者校正の作業を軽減するために、最終原稿の電子媒体による提出を推奨する。ただし、2. 執筆要領⑦により英文原稿を提出する場合は、必ず電子媒体により提出する。提出に当たっては、9. の提出要領を参照すること。

学会日よりなどの、会員への広報のための原稿は発行日の2か月前まで受け付ける。ただし、情報 File などのごく短いお知らせなどの記事に限って、発行前月の月末まで受け付ける。

4. 投稿資格

原則として本会会員とする。

5. 原稿の受理

論文などは「天気」編集委員会が受理した日をもって受理日とする。

6. 編集

「天気」の編集は「天気」編集委員会で行う。論文・短報および解説については査読を行い、気象談話室・カラーページその他の原稿についても、必要に応じて査読に順ずる審査を行う。査読の結果等によって、編集委員会は著者に改稿を求め、あるいは原稿を受理しないことがある。また編集委員会では軽微な字句の修正を行う場合もある。論文などの印刷の順序は原則として受理日順とするが、編集の都合によってはその順序を変えることがある。

7. 原稿の長さ

原稿の長さは原則として、図表も含めた印刷ページ(印刷1ページは約2000字)で以下の通りとする。

- ・論文：10ページ以内
- ・短報：4ページ以内
- ・解説：20ページ以内
- ・シンポジウム、研究会報告、最近の学術動向、天気の教室、気象談話室、最近の研究から、海外だより、情報の広場、気象業務の窓：6ページ以内
- ・カラーページ、新用語解説、質疑応答、素顔、本だな、会員の広場：2ページ以内
- ・情報 File：1ページ以内

8. 掲載料及び別刷料

① 論文・短報以外の記事の掲載料は無料とする。

② 論文・短報については、著者が研究を本務とする機関に所属し、その機関の職務として行った研究の成果を含む場合には、所属機関より掲載料を徴収する。これに該当しない場合は無料とする。掲載料(消費税込み)は、論文(短報)の場合、最初の10(4)ページまで5,250円/ページ、これを超えたページ分については10,500円/ページとする。電子媒体による投稿は、原稿の体裁が「天気」の投稿規定に合致することを条件に1,050円/ページを割り引く。

③ 別刷は表紙無し30部までが無料で、それを超える場合は実費負担となる。別刷料金は

別刷料=ページ数×15円×部数+表紙代金60円×表紙つき部数+消費税、

により計算する。ただし表紙つきの無償30部を希望する場合は30部の表紙代のみの負担となる。またページ数が奇数の場合には裏面のページも含めた偶数ページ分の料金を請求する。

④ カラー印刷料金

1. 内容分類 ④ カラーページ中の1ページを除き、カラー印刷は上記の掲載料に加え、印刷料を原則として著者の負担とする。カラー印刷料金は、図版の枚数にも依存するが2006年度実績で1ページあたり約60,000円である。

9. 電子媒体による最終原稿の提出要領

① 電子媒体による原稿の提出方法

1) 最終原稿提出時に、電子媒体(フロッピーディスク、MOあるいはCD)を原稿に添えて編集委員会に送付する。

2) 電子媒体提出時には必ず、2. 執筆要領①に指定した体裁の出力原稿を添える。出力原稿には書体など必要な情報を朱書きで明示する。

3) 電子媒体には、ラベルに原稿の表題・著者名と所属機関名・文書ファイル名、および文書作成に使用したパソコンのOS名又はワープロの機種名を明記する。

② 提出する電子媒体の文書ファイルの作成方法

1) 提出する電子媒体に収める文書ファイルには、必ずプレインテキストファイルを添える。

2) 日本語は全角を使用し、英数字は本文中に1文字で現れるものを除いて全て半角を使用する。

3) プレインテキストで表現できない文字や記号・数式は空白にしておく。

③ 提出された電子媒体は返却しない。